

5大学が連携した地域医療人材育成教育

千歳科学技術大学

北海道内の5大学が連携、異分野の有機的連携で幅広い医療の専門知識とマルチスキルを持つ医療人の育成を目指した教育プログラムを開設し高度専門職業人の育成に取り組んでいる。

1. 背景

広大な医療圏を抱える北海道では、不況、過疎、医療人の不足や偏在などから地域医療が危機的状況となり、地域の活力が失われつつある。この状況を打開する一方策として、医療及び保健福祉を中心とした地域活性化を担う人材育成を目的に、医療系、工学系、情報系、経営系の国・公・私立大学5大学が連携して共同の大学院教育プログラムを開設した。

2. 連携の規模

千歳科学技術大学、北海道医療大学、札幌医科大学、小樽商科大学、室蘭工業大学

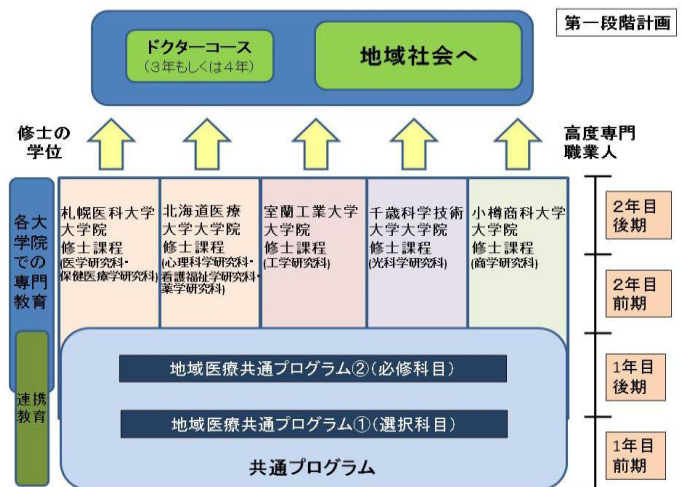
3. 連携の内容

5大学が医療、情報通信、工学技術、経営等の連携教育を行うことで新しい大学院教育を行い、マルチスキルを備えた高度な専門職業人を育成することを目的に以下の理念で教育プログラムを開設した。

- ① 医療、特に地域医療に関する知識の共有、及び異分野連携の基盤となる共通認識の深化
- ② 異分野の大学院生同士の共同作業に基づく連携能力の形成
- ③ 各分野の専門性を地域医療に活用し、保健医療を推進する展開能力の形成

科目の新設については、各大学院の担当者がワーキンググループで検討し、平成23年度より、各大学2科目の授業をeラーニングで受講できるようにした。教材は、図に示すように講義内容を可視化したWeb教材と理解度の確認を図る演習問題を開発した。また、授業の実施方法や単位付与等は、ワーキンググループで議論し、学長レベルの運営評議会で決定された。

(連携教育のイメージ)



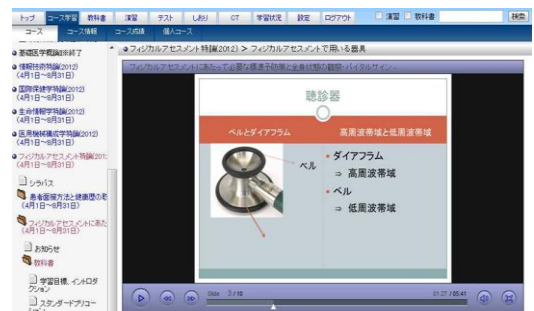
4. 連携の効果

平成23年度は、20名程度が本プログラムを受講している。医療系学生は、病院経営や医療情報の管理が重要なマネジメント業務となっており、小樽商科大学の病院経営学、千歳科学技術大学の医療情報学などを受講している。

知識伝達的な内容は、時間的な制約を考慮し、eラーニングで受講できるようにしている。一方、実習系科目では、対面を取り入れ、札幌医科大学の医学実習には工学系の学生の参加も多く、解剖実習等にオブザーバ参加できる配慮をしている。参加した学生は、命の大切さを肌で感じ、使命感・責任感を強く意識した感想を持つ者もあり、工学系等の医療系以外の学生の全人格教育にも大きく寄与している。

5. 今後の展望と課題

今年度は、本プログラムに参加した卒業生の追跡調査を行うことにしている。また、科目数を増やし、研究指導において共同の取組を実施して、共同大学院の開設を目指している。



(eラーニング教材のイメージ)